

●やってみよう!!  
将来にわたり、生物多様性のめぐみを受け継げるように、今日からできることは何か、考えてみましょう。

たとえば、

**たべよう**  
地元でとれたものを食べ、季節の旬のものを味わう。

**ふれよう**  
自然の中へ出かけ、自然や生き物にふれる。

**つたえよう**  
自然の素晴らしさを感じて、写真や絵、文章で伝える。

**まもろう**  
自然とのつながりを守るために、地域の活動に参加する。

**えらぼう**  
エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買う。

こんなことも実は、生物多様性を守ることに繋がっています。  
自分の身近なことからできることを探して、取り組んでみましょう。



環境省  
[MY行動宣言]



古代～中世  
海を望む台地に  
誕生した都



日本中の生き物に支えられ  
花開く大阪文化



近代  
近世



世界の資源へ支え  
られる都市へ



### ③「文化」を支える生物多様性

#### 豊かな文化の根源

各地域には、地域固有の生物多様性と深く関連したさまざまな知識や技術、豊かな感性や美意識が培われています。たとえば、漬け物、味噌、しょうゆ、日本酒など、地域の微生物と食材が織りなす地域固有の食文化があります。

#### 安全・安心の基礎

森林を守ることは山地災害の防止や土壤の流出防止、安全な飲み水の確保につながります。また、農薬や化学肥料を使いすぎないことは、食べ物の安全性を高めるばかりでなく、生態系の健全性を高めることを通じて、土壤微生物の活動を活発にし、害虫防除の機能を發揮します。

### ④「おおさかの文化・歴史」と生物多様性のつながり

大阪の経済的、文化的な豊かさは、大阪、関西、日本、世界の生き物のめぐみに支えられながら育まれてきました。それは今も変わりません。

#### なんで「なにわ」なん? ~大阪の自然を今に伝える~

古くは市域のほとんどが海の底にあった大阪市。半島に突き出した上町台地の北端に難波宮が建設され、政治拠点となりました。その付近の潮の速さから「浪速(なみはや)」と呼ばれ、それが訛って「難波(なにわ)」と呼ばれたという説。豊かな海の恵みを生み出す大阪湾を、「魚(な)の庭」と呼んだという説など。諸説ありますが、どの説も水と緑の深い大阪の自然を今に伝えています。



#### なにわは食の発信地 ~諸国の中でも最も豊かな商業都市~

大阪と言えば「食い倒れ」。江戸時代、大阪は水上交通の要所であり、諸国の食材や特産物が集まる「天下の台所」として日本一の商業都市に発展しました。一堂に集まる全国の新鮮な食材、いわば生き物たちの賑わいが、「合わせだし」などを生み出しました。

#### なにわにもあるんやで、伝統野菜 ~発展するまちを支えた野菜たち~

淀川や大和川が運ぶ土砂の堆積により、野菜の生産に適した土地が形成された大阪市。そこでは、毛馬胡瓜や天王寺蕪、田辺大根、難波葱など、様々な伝統野菜が生産され、発展する大阪のまちの消費を支えてきました。現在も「なにわの伝統野菜」のブランドで、その伝統が継承されています。



#### なにわの海の幸 ~今も息づく淀川の魚たち~

海と川がまじわる豊かな漁場である淀川河口では、多様な漁業が行われてきました。鉤簾によるシジミ漁をはじめ舟曳網によるシラス漁、さらには伝統漁法であるタンボ(筒)によるウナギ漁などが現在も営まれています。



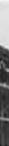
#### 文楽もそうなん!? ~クジラのヒゲが支える伝統芸能~

大阪が誇る伝統芸能「文楽」。セミクジラのヒゲを使った仕掛けが、文楽人形の芸術的な動きを可能にしています。生き物の恵みが、世界に誇る無形文化遺産を支えているのです。



#### 大阪は「東洋のマンチェスター」や! ~世界の綿花に支えられた工業都市~

明治時代には、数多くの紡績、織維会社ができ、大阪は「東洋のマンチェスター」と呼ばれるにふさわしい発展をとげました。この頃、紡績の原料として使われる綿花の多くは、国外から輸入されたものでした。グローバル社会の幕が開け、大阪は国内だけでなく、世界の生き物の恵みである綿花に支えられ、工業都市としてめざましく発展していったのです。

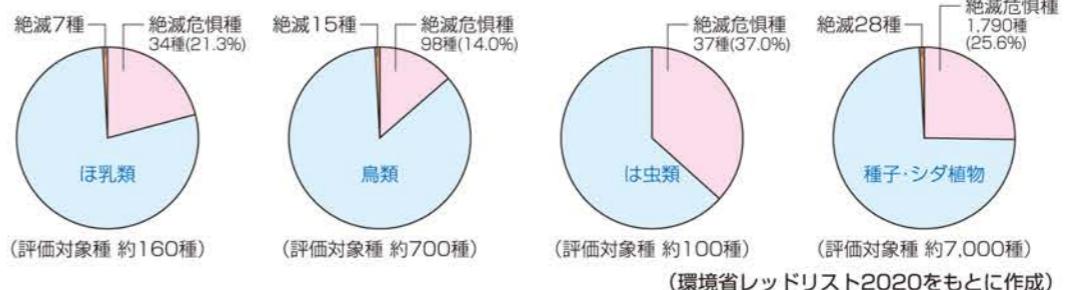


### ③ 今、生物多様性の危機

生物多様性の危機が世界的な問題となっています。日本でも多くの動植物が絶滅の危機にさらされています。その原因は開発によりすみかを追われる、過度の捕獲や採取で絶滅に追いやられる、外来生物や有毒な化学物質、地球温暖化の影響を受けるといったことがあげられます。大阪府でも多くの動植物が絶滅の危機にさらされています。

#### ① 絶滅危惧種の状況

##### 絶滅の危機にさらされる日本の野生動植物



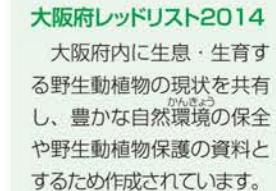
大阪府ではどうなっているのでしょうか

##### 絶滅の危機にさらされる大阪の野生動植物

分類群	絶滅	絶滅危惧 I類	絶滅危惧 II類	準絶滅危惧	大阪府野生生物目録掲載種類数
<b>動物</b>					
ほ乳類	0	4	4	5	33
鳥類	0	7	26	47	365
は虫類	0	2	1	4	20
両生類	0	2	6	4	18
汽水・淡水魚類	0	19	10	9	130
昆虫類	22	54	86	188	5,567
<b>植物</b>					
維管束植物	86	162	85	92	2,436
コケ植物	3	44	47	40	
その他	0	5	22	24	

(大阪府レッドリスト2014をもとに作成)

- ※1 絶滅…大阪府ではすでに絶滅したと考えられる種
- ※2 絶滅危惧 I類…絶滅の危惧に瀕している種
- ※3 絶滅危惧 II類…絶滅の危険が増大している種
- ※4 準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」になる可能性のあるもの
- ※5 大阪府野生生物目録掲載種類数…外来生物の種数を含む



カヤネズミ  
(出典: 大阪市立自然史博物館展示標本)



カヤネズミの巣  
体の大きさが6~7cmの世界最小クラスのネズミ。多くの種のネズミは土に穴を掘って巣を作りますが、カヤネズミはオギやススキなどの葉を切り裂いて編みこんで地上から平均1mの高さに球状の巣を作ります。大阪府で保護上重要な種に指定されています。

#### 大阪府の絶滅危惧種



## 外来生物法

海外からやってきた外外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物を「特定外外来生物」に指定し、輸入や運搬、飼育・栽培、販売などを規制する法律です。また、これらの生物を野外に放つたり植えたりすることも厳しく禁じられています。違反した場合は処罰されます。

正式名称は「特定外外来生物による生態系等にかかる被害の防止に関する法律」といいます。2020年11月現在で、156種が指定されています。

分類	種類
脊椎動物	ほ乳類 25
	鳥類 7
	は虫類 21
	両生類 15
	魚類 26
無脊椎動物	クモ・サソリ類 7
	甲殻類 6
	昆虫類 25
	軟体動物 5
植物	19



クビアカツヤカミキリ



アライグマ



大阪でもこれらの生物が見つかっています。生態系や人体に悪影響を及ぼす可能性があります。

## 外来生物の影響は

### ①ブラックバスの脅威



オオクチバス(特定外外来生物)



ミシシッピアカミミガメ(幼体)

#### ※固有種

その国や地域で進化して新しい種となった生き物のこと。分布がその国や特定の地域に限定されます。

### ②ペットが逃げ出し野生化

外来生物は人が持ち込んだり、荷物に混ざって入るほか、ペットとして輸入された野生生物が逃げだして野生化するケースも目立つ。北アメリカ原産のアライグマなどが農作物を荒らしている。また北中米原産のカミツキガメは千葉県の印旛沼周辺などで目撃されており、人に危害を加える恐れもある。最近輸入が激増している外国産のカブトムシやクワガタも、野生化して在来種のすみかを奪ったり、在来種と雑種をつくって純粋な日本産クワガタが減ってしまうと心配されている。

(出典:環境省「いのちはつながっている」)

### 大阪(淀川)で確認された特定外外来生物の例



ブルーギル



アレチウリ



ナガエツルノゲイトウ



ウシガエル



カダヤシ



ヌートリア

## ②市街地と生物多様性

### 大阪市役所の屋上緑化

都市における良好な自然環境の創出のため、市街地における緑化の推進が求められており、その手法の一つとして建築物の屋上に芝や草木を植える、屋上緑化が注目されています。大阪市役所の屋上では、自然や緑、花に、ふれあい、都市における緑化を実感できる空間をめざして整備しています。

#### 湿性草地

地形的に変化を持たせ、湿地性の植物や野草を配置することで、鳥や昆蟲類の生息環境を創出。

#### 北西テラス広場

屋上緑化の鑑賞の場として、修景に配慮した木製のステップテラス。

#### 北プロック(面積 約370m<sup>2</sup>)

自然ゾーンとして位置づけ、実なる木や野草類を中心に鳥や昆蟲が好む植物を配した、自然環境の創出。

植栽: 中高木 コブシ他18種  
低木 ナンヨウゴミ他17種  
地被類 ミズキモ他10種  
野草地 100m<sup>2</sup>

#### 南プロック(面積 約400m<sup>2</sup>)

修景ゾーンとして位置づけ、明るく開放感があり、修景面に配慮した花木や地被類を配した屋上緑化の空間。

植栽: 中高木 ガルヌペリ他17種  
低木 コデマリ他6種  
地被草花類 ローズマリー他32種  
芝 生 100m<sup>2</sup>

#### 南西テラス広場

花木園や周辺街並みを眺めることが出来る広場とし、中央にシンボルツリーとしてカラミザクラ(サクランボ)を植栽。

#### 花木園

明るく開放感の感じられる場とし、花木を中心配植した、都市における四季の移ろいを演出する花木園。

#### 南テラス広場

屋上緑化の鑑賞の場及び休息の場として、修景に配慮した木製のオープンテラス。

テラス周りはコニファー類等を配置。

東南隅植栽 修景面に配慮した背景植栽として、常緑針葉樹を配植。

草花の園 グランドカバー類を中心とし、四季を通して花の見られる空間を演出し、植物の展示観察ができる場。

草地 野草を配慮した草地。

北外周植栽 雜木林をイメージし、鳥などが好む、食餌植物を配植。

北テラス広場 屋上緑化の鑑賞の場として、修景に配慮した木製のステップテラス。



(北ブロック)



(南ブロック)

修景 自然の美しさを損なわないように風景を整備すること。



イソヒヨドリ(メス)



ニホンミツバチ

### 屋上緑化の効果

屋上緑化の効果には、「身近な環境を改善する効果」と「都市全体の環境の改善に寄与する効果」があります。1つの建物の屋上を緑化するだけでも「身近な環境を改善する効果」が得られますが、都市内で屋上緑化が増えると、全体として、「都市全体の環境の改善に寄与する効果」が発揮されます。

#### 身近な環境を改善する効果

- 最上階の気温上昇の抑制効果
- くつろぎと安らぎの場の創出効果
- 生物相の多様性を生み出す効果
- 建築物の劣化防止効果
- 防塵効果

#### 都市全体の環境の改善に寄与する効果

- ヒートアイランド現象の軽減効果
- 雨水の流出抑制効果
- 大気汚染の緩和効果
- 都市の景観向上効果

### ○大阪市役所の屋上で確認された鳥類・昆蟲類等

(調査協力: 地球館パートナーシップクラブ (2004~2011年度))

(1)鳥類 イソヒヨドリ、メジロ、ハクセキレイ、モズなど15種類

(2)昆蟲類等 モンシロチョウ、ニホンミツバチ、トノサマバッタなど326種類

(3)その他 都市部ではめずらしいホタルブクロやヤブヘビイチゴなどの野草

2018年度から2020年度までの3年間の計画。2020年度に、2021年度から2030年度までの10年間の計画を策定予定。

「生物多様性の恵みを感じるまち」の実現に向けて取り組みを進めています。



## 新・里山

### 里山

薪や山菜の採取などに利用される、生活に結びついた集落周辺の山などのこと。

人の手が入ることで生態系のつり合いがとれ、多様な生物が生息していました。

**小話：**  
ハイタカ1羽が生息するために必要な環境



ハイタカ(1羽)  
シジュウカラ(779羽)  
マツシャクトリムシ(97,375,000匹)  
広葉樹林(420ha=420万m³)

(出典：日本鳥類保護連盟の試算)

食物連鎖上、ハイタカ1羽でシジュウカラが779羽、マツシャクトリムシが97,375,000匹、広葉樹林(420ha)などが生息の環境として必要と言われています。



オオルリ



ジョウビタキ



メジロ



アサギマダラ



ジャコウアゲハ



ヤマトシシジミ



ツワブキ



ホタルブクロ



クサイチゴ



ヤハズエンドウ

## ③ 大阪市での取り組み

大阪市では、2018年3月に「大阪市生物多様性戦略」を策定し、緑地や水辺空間の保全とともに、生物多様性の観点から、市域に残された自然と学校、公園などの緑と河川などの水辺空間のネットワークづくりを進め、多様な生き物が息づく豊かな都市環境づくりに取り組んでいます。

### 大阪市役所の取り組み

世界的に生物多様性の危機がさけばれるなか、大阪市でも生物多様性を守るために取り組みを進めており、花博記念公園鶴見緑地内にある自然体験観察園や淀川などで自然体験イベントを開催しています。

また、大阪市の様々な普及啓発や研究の拠点では、自然に関するさまざまな情報発信や研究などが進められています。（P48参照）



「生物観察会」の様子



「お米づくり連続講座」の様子



「楽しい水辺教室」の様子  
(地曳網体験)

### 大阪市内の学校の取り組み

大阪市内の小中学校では、自然環境を守ることの大切さについて理解を深め、自分から進んで自然環境の保全に取り組むようになるために、ビオトープが整備されています。



摂陽中学校（平野区）



東田辺小学校（東住吉区）

### 市民・企業・NPO等の取り組み

大阪市内の企業では、自社敷地内の緑化やビオトープの整備、原料調達にあたっての配慮など、先進的な取り組みが進められています。

大阪市内には、自然をテーマとして活動するNPO等が数多くあり、これらの団体では、身近な場所での自然観察会や環境に関する講座など、市民参加によるさまざまな取り組みが進められています。

今後、市民・企業・NPO等がさらに連携しながら、それぞれの持つ力をいかしていく必要があります。

### ビオトープ

ドイツ語のbio(生命)とtop(場所)の合成語で、多様な野生生物が生息する環境のことです。

**原料調達にあたっての配慮**  
いほうばっさい  
違法に伐採された木材を使用しない、間伐材を積極的に使用するなど、生態系を保全し、持続可能な調達に取り組んでいます。